

日本列島情報ネット

北陸・信越版

新潟支局 新潟市中央区東大通2-12
電話・025(246)3234
FAX・025(246)3967

富山支局 富山市外野町2-4-21
電話・076(421)1782
FAX・076(421)1785

日鉄工材 機器工場の技能継承・向上支援 個人ごとロードマップ策定

日鉄工材(本社・上越市、社長・宮原光雄氏)は社内の技能継承で個人向けのスキルアップロードマップを策定し、中長期で技能向上をサポートしている。業務に必要と認められた資格取得には全額補助を行っている。

ロードマップは機器工場の全現業社員で策定される。上司と相談しながら項目を決め技量を上げていく。例えば

ば電着ドラム溶接担当の場合、1年目に自動溶接装置を含む二つの自動機を取り扱う作業を経験する。新人の教育訓練計画に反映し、作業の独り立ちに活用。指導は詳細な評価項目に沿って行う。

溶接資格は社内で作成したマニュアル動画で知識、操作法やコツを学び、その後上司、先輩とのOJTで経験を積む。マニュアルは

若手と話しながら理解しやすいものを作成し、常に更新していく。順序立てて要所をまとめており、理解度の向上が図られている。特徴は資格取得のための受験費用はすべて会社負担であること。受験準備期間は1人当たりの生産工数を約0・8とカウントし、計画を立てる。必要となった残業代も付ける。機器工場所属で入社



上野工場長(左)、入社2年目の内田氏

2年目の内田望愛氏は市内高校在学中にJIS溶接資格を取得。溶接技術を磨ける同社を選んだ。

「学生時代と違い、銅やチタンでは鉄やステンレスと溶接方法が全く違い、覚えることがたくさん。1人でできるようなことがうれしい。先輩、会社に貢献できるように溶接資格を「溶りたい」と話す。

同社は新入社員へのフォローが手厚い。入社から5カ月ほど上司と日報を交わす。作業時に気づいた質問や提案・悩みごとに対し寄り添いつつ答えていく。溶接担当は入社4年目からは新潟県溶接競技会(ステンレス溶接)へ参加することも可能。社内選考を経て今年4人が出場した。指導役の中心は機器工場長で現代の名工でもある上野康秀氏が担当。「出場者には経験を生かし、職場でも一流の溶接士に近づこうと期待している」と健闘をたたえる。

また、個人の人生観を尊重することで長く働くモチベーションに繋がっている。具体的には「キャリアアピジョン」では業務目標、「幸せ円グラフ」では人生で大切にすることを視覚化。「ドリームコンパ」では個人的な目標を語る。それぞれ夢や目標を理解し、激励。信頼関係を築くことで各人の休暇時に互いにフォローする気持ちに繋がってほしい」と幹部。

2005年には上越市で初のユースエール認定を取得。若者を応援する企業として採用時に学生、親にPRできる。高校生の見学時には職場風土や社員同士の協業、力量アップへのサポート体制やキャリアアップに力を入れている点を強調している。